HALL REPORT

ジャラン若葉駅前店（埼玉県鶴ヶ島市）

10軒目は駅前市場を独占

拡大路線を貫くリベラ社

リベラ・ゲーミング・オペレーションズ（東京都新宿区）が8月9日、埼玉県鶴ヶ島市に『ジャラン若葉駅前店』をグランドオープンした。グループ10店舗目を数える同店は総台数578台（パチンコ271台、パチスロ307台）。7月に事業承継したばかりの居抜き物件だ。

大盛況のスマスロコーナー

「パチンコ店ができて本当に良かった」

「俺たちの遊び場がなくなるところだったんだよ」

地域のパチンコ・パチスロファンは開店初日、口々に喜びの声を北風大輔ストア・マネージャーに伝えたという。この真相を知るには、少し時を遡る必要がある。

東武東上線・若葉駅前ではもともと、ホール2店舗が営業していた。いずれも500台規模で、店舗間距離は300メートルほど。リベラ社が取得した店舗のほうが駅寄りながら後発で、経営年数18年のもう片方のほうが賑わいに分があったようだ。

経営法人はまったく別だったが、両店舗は今年3月下旬に同日閉店した。M&Aを検討していたリベラ社・店舗開発課の中村誠課長は、当時を次のように振り返る。

「仲介を通じて双方の売却額を知りましたが、古参の店舗はかなり強気の価格設定。これは買い手がつかないと踏んで、当店の成約話を進めました」

半径5キロ圏内の同業は10軒ほど。市内では3軒が競合する。地域事情に詳しくなかったが、駅前市場を独占できる可能性に賭けた。古参の店舗は遊技産業健全化推進機構のWebページから姿を消し、現在までに動きはない。

「当社は南関東で物件を探しています。駅前でも郊外でも500台規模であれば、積極的に検討したい。自社立ち上げも含めて年に1店舗は拡大を続け、成長する意欲を社員に示したい」（中村課長）

コロナ禍に突入した2020年は、同社のターニングポイントだった。ホール5店舗を展開する埼玉県の法人事業部を3月に子会社化。11月には本社所在地を創業地の富山から新宿に移し、永森商事から社名変更した。禍中の21年にも、北海道の法人から浅草の店舗を承継した。

10店舗目を飾る『ジャラン若葉駅前店』では、前法人にはなかったスマート遊技機を64台（全体の11%）導入した。スマパチが5機種14台で、スマスロが12機種50台。遊技機もスマート遊技機の専用ユニットもすべて自前で用意した。

店内構造は1階がパチンコフロアで、2階がパチスロフロア。駅前ロータリー側から入店すると、スマパチコーナーとエスカレータが目に飛び込む。パチンコ全台が各台計数機能付き。パチスロ島はダウン島だ。

稼働はまずまずの滑り出しを見せている。パチスロは46枚貸しも低貸しも好調で、メダル補給に走るスタッフが盛況感を生んでいた。パチンコでは、低貸しがほぼ満席状態。4円と低貸しの比率を見直す計画だ。

地域を深く知るために市内に転居したという北風ストア・マネージャーは、『ジャラン浅草店』から異動してきた。

「当面の課題は学生アルバイトの育成。未経験者が多いのでOJTで力を着けさせたい。フレンドリーな接客を是とし、地域ニーズに応える営業を目指す」と意気込みを語る。

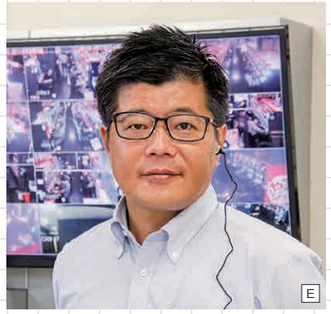
ホール業界では、今後も淘汰の波が続く。M&Aの売り手が専業の場合、苦楽を共にした社員の行く末を案じることも事業者の努めだ。

「当社は異業種のFC展開にも意欲的です。売上規模は本業に敵いませんが、年齢を重ねた社員のセカンドキャリアを考えた社長の意向だと、私は捉えています」（中村課長）

中村課長は20年に事業部を子会社化された法人出身者。現在は事業開発部、総務・人事部も任されている。

「リベラ社のほうが待遇の制度設計が明確かつ、拡大路線を打ち出していました。企業理念も感動を創り出す点で通じていた。個人的には納得できる転機でした」

紆余曲折を経て、芯が強い人材は優れた企業に集う。そうした企業が激動の世を生き抜くのだろう。AJ



A／パチンコでは低貸しや新台コーナーが賑わう　B／ジャグラーコーナーも満席　C／清潔感にあふれる景品カウンター　D／駅前ロータリーに面した立地　E／北風ストアマネージャー